

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人北見工業大学

1 全体評価

北見工業大学は、「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を基本目標としている。第3期中期目標期間においては、学士課程では基礎教育を重視し、学科間の垣根を取り払い、より一層の個性化、高度化、グローバル化を推進するとともに、大学院課程では寒冷地域環境工学、エネルギー工学、工農、医工連携等実践的な教育研究を実施し、専門技術者、高度専門技術者を育成し社会的要請に応え社会で活躍できる人材を輩出すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、積雪寒冷地域における防災力向上に貢献するための研究成果の社会還元を地域とともに行うことを目的として「地域と歩む防災研究センター」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 多くの学生が遊休公共施設（競馬場跡地）に設置した実物大の各種大型実験施設（屋根型林道実験設備、補強土壁、盛土のり面実験設備、屋外開水路実験施設）を卒業研究における実証試験の場として利用し、その結果、札幌市で開催された「令和元年度北の国・森林づくり技術交流発表会・森林技術部門」において、大学院生が屋根型林道実験設備を対象とした研究成果により奨励賞を受賞するなど、成果を社会に幅広く周知するとともに、教育活動にも還元している。（ユニット「地域と連携した雇用創出及び学生の地元定着」に関する取組）
- 博士前期課程のカリキュラムの構築に当たって、課題解決学習（PBL）型修士論文研究遂行に必要な学際的方法論を修得させるため、修士論文テーマに関連する他専修プログラムの基礎知識を、主指導教員が分担教員の支援の下で教授する科目「学際工学特論」を新設している。（ユニット「地域貢献と地球環境に重点を置いた教育研究組織の再編」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 外部資金獲得増に関する取組

共同研究実績がある企業へのアンケート結果の分析や外部資金獲得に貢献した教員への報奨金の支給に加え、地元自治体から無償貸与された遊休公共施設（競馬場跡地）を実証実験フィールドとして、実物大の大型実験施設（屋根型林道実験設備等）を設置したことにより、令和元年度の共同研究数は127件となり第2期中期目標期間の平均に比して56.8%増加している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載18事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 「地域と歩む防災研究センター」の設置

積雪寒冷地域における防災力向上に貢献するための研究成果の社会還元を地域とともに行うことを目的とし、「地域と歩む防災研究センター」を設置し、これまでの地域との共同研究を「防災」というキーワードで更に一步踏み込むことで地域の実情に見合った成果を還元するとともに、本センターを核とした教育活動によって地域の防災力向上の即戦力となる防災技術者や行政担当者等の人材を輩出・育成することを目指している。